

防災・災害対策

【目標】
■桜島地域における避難体制の再構築

7



取組

住民の避難状況を把握する方法を構築

「住民一覧表」を桜島全域を対象に作成・更新し、町内会長や民生委員、防災関係機関と情報共有することで、住民の避難状況の把握に努めています。

避難行動要支援者の避難体制を確立

桜島火山爆発総合防災訓練において、事前に作成したタイムラインに基づき、町内会・民生委員・消防団が連携し、避難行動要支援者の避難状況の把握等を行っています。



成果

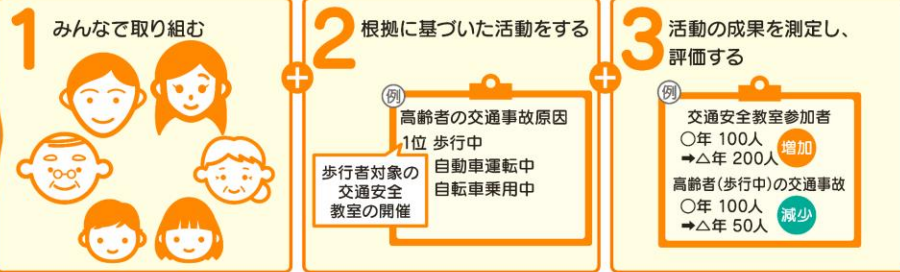
桜島地域における住民一覧表の作成

2013年 77人 (1町内会) → 50.4倍に増加 → 2020年 3,877人 (全町内会)
※危機管理課調べ

桜島地域における避難行動要支援者に対する支援者の決定率
2016年度 39.5% → 17.7ポイント増加 → 2020年度 57.2%
※危機管理課調べ



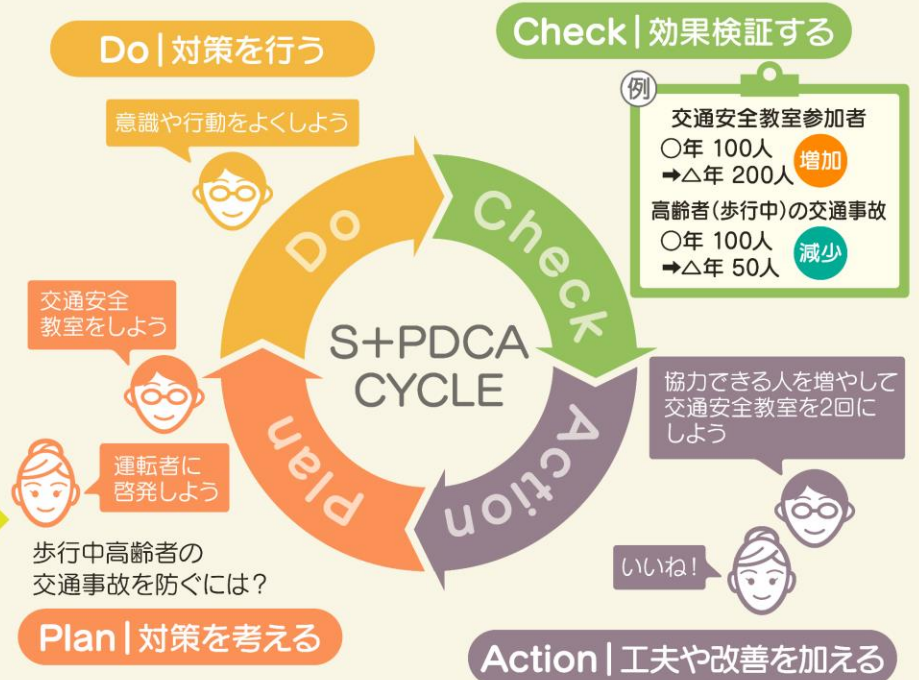
セーフコミュニティの3つの仕組み



セーフコミュニティ活動 S+PDCA サイクル

See | 現状把握

例
高齢者の交通事故原因
1位 歩行中
2位 自動車運転中
3位 自転車乗用中



お問い合わせ先

鹿児島市危機管理局安心安全課(鹿児島市山下町11-1 市役所東別館3階)
TEL.099(216)1512/FAX.099(226)0748/メール anshin@city.kagoshima.lg.jp



2021年1月 国際認証再取得しました!!



世界基準の安心安全都市

みんなで
つくる

SAFE COMMUNITY KAGOSHIMA
セーフコミュニティがごしま



【マグマシティPRキャラクター 火山の妖精マグニョン】

セーフコミュニティってなに??

「セーフコミュニティ」とは、「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」という考えのもと、**みなさんの身近で起こっている事故やけがを予防する取組のことです。**

鹿児島市では、地域住民、団体、行政が一緒になって事故やけがの予防に取り組んでいます。セーフコミュニティは、WHO(世界保健機関)が推奨している取組で、国際認証制度があり、鹿児島市は、2016年1月に認証を取得し、さらに2021年1月には再認証を取得しました。

これまでのあゆみ



鹿児島市の重点7分野



交通安全

- 【目標】
- 自動車による交通事故減少
 - 高齢者の交通事故減少
 - 子ども(中学生以下)の交通事故減少

1



取組

<子ども向け>交通安全教育等

交通安全教室を開催し、道路の横断方法や自転車の乗り方の実技指導を受けることで、交通ルール・マナーへの理解がより深まります。



<高齢者向け>参加・体験型の交通安全教室等

ドライビングシミュレータや歩行シミュレータなどを使い、実際に参加・体験しながら交通安全について学んでいます。



成果

子ども(中学生以下)の交通事故死傷者数

2013年 153人 64.7%減少 2020年 54人

※鹿児島県警察本部(交通安全課)調べ

高齢者の交通事故死傷者数

2013年 694人 51.9%減少 2020年 334人

※鹿児島県警察本部(交通安全課)調べ



高齢者の安全

- 【目標】
- 高齢者の転倒による外傷の減少
 - 虐待や認知症への啓発・理解の促進

4



取組

転倒予防教室の実施

転倒につながる身体機能の低下を予防するため、らくらく体操や鹿児島よかよか体操などを実施しています。なお、体操の実技指導やDVDの貸し出しも行っています。



認知症サポーター養成講座の開催

認知症について正しく理解し、認知症の方と家族を応援する「認知症サポーター」を養成しています。



成果

転倒予防教室の参加者数

2014年度 5,013人 2.1倍に増加 2020年度 10,554人

※長寿女性課調べ

認知症サポーター養成講座延べ受講者数(全市)

2015年度 32,189人 1.6倍に増加 2020年度 50,622人

※長寿あんしん課調べ

学校の安全

- 【目標】
- 小中学校の校内等でのけがの減少

2



取組

小学校での取組

校内等でのけがの減少のため「校内パトロール」「危険箇所マップづくり」「危険」などの表示)などに取り組み、児童のけが防止に対する意識と行動を高めています。



中学校での取組

運動部活動中のけがの減少のため「キャプテン会議の開催」「入念な準備運動の実施」に取り組み、生徒のけが防止に対する意識と行動を高めています。



成果

モデル小中学校でのけがの発生件数

2017年度 34件 50%減少 2020年度 17件

※日本スポーツ復興センター調べ

モデル小学校でのけがによる保健室の利用件数

2019年度 509件 23%減少 2020年度 392件

※モデル小学校調べ

DV防止

- 【目標】
- DVの正しい理解と気付きの促進
 - 若年者に対する予防啓発の充実

5



取組

<市民全般向け>DV防止のための情報提供及び啓発

カードサイズDVリーフレットを作成し、公共施設や商業施設等に設置しているほか、毎年11月には、パープルリボンキャンペーンを実施しています。



<若年者向け>DV防止のための情報提供及び啓発

デートDVについて学んでもらうため、学生を対象とした講演会や大学生による中高生向け講座を開催しているほか、啓発誌を作成し、配布しています。



成果

相談先の認知度

2013年度 44.9% 34.8ポイント増加 2019年度 79.7%

※事故やけがに関するアンケート調査

DVは人権を侵害する行為であるとする人の割合(20歳代)

2010年度 92.7% 6.3ポイント増加 2020年度 99%

※男女共同参画に関する市民意識調査



子どもの安全

- 【目標】
- 家庭内等での事故・けがの減少
 - 子育て中の親への支援

3



取組

家庭内等での事故・けがに関する情報の発信

保護者に対して、家庭内での安全対策についての情報発信や、家庭内の危険箇所マップを配付するなど、子どもの事故・けがの予防に対する意識啓発に努めています。



体力・運動能力の向上を目的とした活動

保育園等での生活の中に、体力や運動能力の向上を目的とした活動を取り入れ、運動を調整する能力を高めることで、けがの予防につなげています。



成果

子ども(0~6歳)の事故・けがによる救急搬送人員(1万人当たり)

2014年度 66.5人 12.5%減少 2020年度 58.2人

※救急搬送データ

園内での児童の事故・けがの人数(1団体当たり)

2015年度 8.5人 48.2%減少 2020年度 4.4人

※子ども政策課調べ



自殺予防

- 【目標】
- 中高年(50~69歳)の自殺者数の減少

6



取組

自殺予防の普及啓発・ゲートキーパー養成講座の開催

自殺に関する正しい知識の普及や、悩んでいる人に気付き、必要な支援につなげる「ゲートキーパー」を養成し、地域全体で自殺予防を行います。



相談窓口の周知

無料相談窓口カードを市役所や病院、薬局、遊技場、コンビニなどさまざまな場所に設置し、相談窓口の周知に努めています。



成果

鹿児島市の自殺者数

2013年 111人 33.3%減少 2018年 74人

※かこしま市の保健と福祉(人口動態統計)

鹿児島市の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)

2013年 18.3 5.9ポイント減少 2018年 12.4

※かこしま市の保健と福祉(人口動態統計)